

群 教 セ	G09 - 02
	平 17.228 集

自分の思いや考えを表現しようとする 態度を育てる指導の工夫

—— InputとOutputの繰り返し活動を通して ——

特別研修員 金子 敬 （ 孺恋村立西中学校 ）

（研究の概要）

本研究は、InputとOutputの繰り返し活動を通して、自分の思いや考えを表現しようとする態度を育てることを目指したものである。具体的には、文章を読んでその内容について整理し、自分の思いや考えを加えて表現する活動を行った。その過程で、生徒同士で指摘し合う繰り返しの活動に取り組むことで、お互いの文章のよさを認めたり、参考にしたりすることができるように工夫した。

キーワード 【英語 - 中 Input Output 繰り返し活動 自分の思い 提案】

主題設定の理由

国際化社会、情報化社会と言われて久しい。多くの日本人が海外へ出かけたり、外国人が日本を訪れるといった相互交流の機会が増えてきている。また、インターネットなどの普及にともない、コンピュータを利用して世界中の多くの情報を入力でき、Eメールでのやりとりを行う機会も増えてきている。そのような状況の中、国際語である英語を用いて、積極的にコミュニケーションを図る必要があると考える。そのためには、英語に慣れ親しんで、自分の思いや考えを伝えることができる力、すなわち自己表現力を育成することが大切であると考え。そして、自己表現できるようになるためには、同じ表現を何度も繰り返して練習していこうとする学習意欲が求められると考える。

本校の生徒の実態をみると、大半の生徒は英語が好きで、ALTに自分が話した英語が通じた喜びを味わい、もっと話せるようになりたいという話す活動への意欲は大変高いようである。これは今までの授業の中でオーラル活動に多くの時間を費やし、簡単な挨拶や会話が成立する程度の表現を反復練習してきたことの成果であると考え。一方、書く活動に関しては、教科書の本文の語を入れ替えて英文を書くといった活動はしてきたものの、書く指導の工夫が欠けていたため、自分の思いや考えを自由に表現することができる状態に至っている生徒は少ない。また、書く力は生徒間で

格差があり、苦手意識が強い生徒もいるため、支援のあり方についても工夫する必要があると考える。

書く活動は、自分の思いや考えをどのように英語で表現すればよいかに時間をかけることができるため、試行錯誤をしながらも、適切な表現を自分自身で見いだすことができると考える。また、いったん定着した表現を言葉で表す練習をすることにより、話すためのコミュニケーション能力の育成にもつながると考える。しかし、自分自身で適切な表現を見いだすためには、ある程度の英語表現を知識として知っていなければならない。役に立つ様々な表現を覚える、すなわち Input することで、初めて自分の伝えたいことを表すための語彙や構文や言い回しなどを自分なりに考えて表現する、すなわち Output することができるようになるであろうと考える。

そのため、本研究では教科書のまとまった英文を読んで、語彙や構文や言い回しなどを Input し、それらを活用して英語で表現するという Output の活動を行いたいと考える。具体的には、教科書の本文を読み、筆者の考えであると思える語や文を抜き出して、内容に関する情報を得て(Input)、それらの英語をワークシートに整理する(Output)。また、ワークシートに整理した英語を友達に見てもらって、指摘を受けることで様々な新しい表現などを学び取り(Input)、自分の新しい表現方法に生かしていく(Output)。そして、教師の提示したテーマに関する英文を読んで、さ

らに多くの知識や情報を取り入れ (Input)、取り入れた知識や情報を参考にして英語で自己表現する (Output) 活動へとつなげていく。他の生徒との教え合いも行い、お互いのよりよい表現方法に気づき (Input)、新たに自分の思いや考えを膨らませていく (Output)。最終的には説得力のある英文を作成することを目標にし、Input と Output の繰り返し活動を行いながら、生徒の書くことに対する意欲を高めていきたいと考える。

以上のことから、書く活動の Input と Output の繰り返し、よりよい英語表現をしたいという意欲の向上につながり、自分の思いや考えを表現しようとする態度が育つと考え、本主題を設定した。

研究のねらい

英語を書く活動において、Input と Output の繰り返し活動を行えば、自分の思いや考えを表現しようとする態度が育つことを実践を通して明らかにする。

研究の見通し

- 1 導入の過程において、教科書の英文を読んで、筆者の考えをまとめる視点で整理し、よりよい英文作りをする上での Input と Output の繰り返し活動を行えば、まとまった英文作りに興味をもって取り組むであろう。
- 2 応用の過程において、選んだテーマについて提案するという視点で整理し、説得力のある英文作りをする上での Input と Output の繰り返し活動を行えば、書くことに自信がもて、自分の思いや考えを表現しようとするであろう。

研究の内容と方法

1 研究の内容

- (1) 自分の思いや考えを表現しようとする態度について

「自分の思いや考えを表現しようとする態度」とは、自分の思いや考えを相手に理解してもらうために最も適切な語彙や構文や言い回しなどを選択し、文章構成にも工夫しながら何とか伝えようとする態度であると考えた。また、よりよい英

文作りをするために辞書や提案表現集を使用したり、友達からの有効な指摘を受け入れようとしたりする態度であると考えた。

導入、応用それぞれの過程における具体的な生徒像として次の2点を挙げる。

英文を読んで、筆者の考えを理解し、その考えをまとめようとして、読むこと、書くことの繰り返し活動でまとまった英文作りに興味をもって取り組む生徒。

教師が提示したテーマについて、自分の思いや考えを提案しようとして、読むこと、書くことの繰り返し活動で相手にわかりやすく伝えるための英文作りに意欲的に取り組む生徒。

(2) Input と Output の繰り返し活動について

Input とは、教科書の本文や教師が提示した資料を読み、筆者の考えを表す文章構成の仕方や語彙や構文や言い回しなどに関する情報を得ること、また、友達から指摘された内容や役に立つ英語表現を学ぶこととする。また、Output とは、得た情報や学んだ英語表現などを参考にして自己表現することとする。こうした Input と Output を繰り返し行うことにより、自分自身で作成した英文も段階的によりよいものへと仕上がり、その過程の中で基礎・基本が定着し、コミュニケーション能力につながる表現力も向上するものと考えられる。

具体的には、導入の過程では、教科書の本文を読んで、筆者の考えが表れている語彙や構文や言い回しなどを抜き出し、ワークシートに整理する。その際、自己表現する上で参考になるものを取り上げることに重点を置くため、語順や文章表現上の正確さにはとらわれ過ぎないようにする。こうして、出来上がった文章について、友達から内容や表現上の指摘を受け、参考となる点を生かして修正する。

応用の過程では、教師の提示したテーマから一つを選択し、その英文を読みながら、提案文を作る上で参考になる語彙や構文や言い回しなどを抜き出し、ワークシートに整理する。整理をする際には、導入の過程で作成した文章表現上の大切な点も踏まえるようにする。こうして出来上がった文章について、友達から再度、内容や表現上の指摘を受ける。なお、自分の思いや考えを相手に理解してもらう上で、説得力のある文章構成にするため、そのヒントとなる提案表現集を参考にさせる。この Input と Output の活動を繰り返し行う

ことで、書くことに自信がもて、自己表現活動に意欲的に取り組むことができるようになると思う。

2 研究の方法

研究の見通しに基づき、次のような方法で授業実践を行い、検証する。

(1) 授業実践計画

時期	平成17年10月中旬～11月上旬	教科	外国語（英語）
対象	孺恋村立西中学校 3年A組 男子14名 女子22名 計36名		
題材名	自然を守るための提言	時間	7時間

(2) 抽出生徒

A男	英語に対する関心・意欲は高く、理解力も優れている。しかし自分の思いや考えを表現することに苦手意識がある。友達同士の学び合いを通して、自己表現の機会を経験し、英文を作ることに自信をもたせたい。
B女	英語の授業を楽しんでいる様子は見える。しかしながら理解力不足のため英作文を行っても、正しい単語の綴り、語順で書くことが苦手である。自分が思っていることを間違えを恐れず英語で表現することにより、書くことに自信をもち、より英語が好きになるようにしたい。

(3) 検証計画

	検 証 の 内 容	検証の方法
見 通 し 1	導入の過程においては、教科書の英文を読んで、筆者の考えをまとめる視点で、語彙や本文をワークシート、に整理し、よりよい英文作りをする上でのInputとOutputの繰り返し活動を行うことは、英文作りに興味をもって取り組むために有効であったか。	観察 ワークシート、 評価シート、
見 通 し 2	応用の過程においては、教師の提示した英文に対し、提案するという視点で、ワークシートに整理し、説得力のある英文作りをする上でInputとOutputの繰り返し活動を行うことは、生徒が書くことに自信がもて、自分の思いや考えを表現しようとする態度を育てるために有効であったか。	観察 ワークシート 評価シート、

研究の展開

1 題材の考察と目標

題 材 の 考 察	<p>本題材では、漁師と森林という意外な関係を取り上げた読み物資料を通して、教科書の内容を読んで理解し、個々で理解したことを生かし、書く活動に取り組む。個々で書いた英文をほかの生徒と交換し合い、よりよい英文を作り出していく。自分の伝えたいことを何度も繰り返し練習することで書くことへの意欲が高まり、自分の思いや考えを表現しようとする態度を育てることができると思う。</p> <p>導入の過程では、教科書の本文を読み、筆者の考えであると判断する語や文を書き出し、応用の過程では、自分が選んだテーマについての英文を読み、一人一人が自然を守るための提言を書く。導入、応用の各過程においては生徒同士の学び合いを通して、よりよい英文を作成し、自分自身の思いや考えを書くようにする。言語材料としては、関係代名詞である「～する人」と表現するwho、「～するもの」と表現するwhichについて学ぶことができる。</p>
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・自然保護をテーマに、InputとOutputの繰り返し活動を行い、「自然を守るための提言」を英語で書こうとする。 ・関係代名詞を理解し、正しく用いることができる。

2 評価規準

	ア コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	イ 表現の能力	ウ 理解の能力	エ 言語や文化についての 知識・理解
聞く こと	(言語活動への取組) 友達のアドバイスを真剣に 聞こうとしている。 (コミュニケーションの継続) 理解できないところがあっ ても、推測して聞き続ける。		(正確な聞き取り) 関係代名詞who, whichを 使った英文を聞き取る ことができる。	(言語についての知識) 関係代名詞who, whichの使 い方の知識をもっている。 (文化についての理解) 森林保護と漁業の関係につ いて理解している。
話す こと	(言語活動への取組) 今まで学んだ表現を多く使 おうとしている。 (コミュニケーションの継続) 相手に伝わるように発表し ようとしている。	(正確な発話) 正しい文の英文を読む ことができる。 (適切な発話) 自然保護についてスピー チができる。		(言語についての知識) 関係代名詞who, whichを用 いて述べるができる。 (文化についての理解) 自然を守るための提言を述 べるができる。
読む こと	(コミュニケーションの継続) 理解できないところも推測 して、読み続ける。	(適切な発話) 自分が書いた英文を読 むことができる。	(適切な読み取り) 友達の書いた英文から 書かれている英文の内 容を読み取ることがで きる。	(言語についての知識) 関係代名詞who, whichを含 んだ英文を認識すること ができる。 (文化についての知識) 教科書の英文を読んで自然 保護と漁業の関係について 理解している。
書く こと	(言語活動への取組) 本文からキーワードとなる 語を抜き出し、まとめよう としている。 (コミュニケーションの継続) 間違いをおそれず、自分の 思いや考えが伝わるように 書いている。	(適切な筆記) 自然を守るための提言 を書くことができる。		(言語についての知識) 関係代名詞who, whichを用 いて正しい英文を書くこと ができる。 (文化についての理解) 自然を守ることの重要性を 理解している。

3 指導計画

過 程	時 間	ねらい()と学習活動 【見通し】	支援及び指導上の留意点	評価項目【評価規準との関連】 B:おおむね満足 A:十分満足(評価方法)
	1	関係代名詞を使って、身近 な人や物を表す英文を作る ことができる。 ・関係代名詞を使って自分の 身近な人や物について英文 を作る。 Introductionの本文を読ん で、植林活動をする漁師に ついて理解できる。 ・本文を読んで、漁師たちの 植林活動の意義を知る。	・身近な人や物について興味を もって表現できるような例文 を多く提示する。 ・教科書の写真や植林の活動を 紹介している資料などを用い て、理解を深められるように する。	・関係代名詞を使って、身近にいる人物や物 について英文で書くことができる。 【ウ、エ】 B:1~2文作ることができる。 A:3文以上作ることができる。 ・植林活動と漁業の関係について理解しよう としている。【イ、エ】 B:TorF Quizに答えようとしている。 A:TorF Quizに答え、自分で質問を考えよ うとしている。(観察、評価シート)

導 入 の 過 程	2	<p>セクション 1 の本文を読み、筆者の考えを見つけ出し、英文で表す。</p> <p>・段落ごとに重要である語を書き出し、セクション 1 で筆者の考えをまとめる。</p> <p>【見通し 1】</p>	<p>・ワークシート を用いて、各段落のキーワードを抜き出せるようにワークシートを工夫する。</p> <p>・生徒間での教え合いや学び合いの時間を確保する。</p>	<p>・筆者の考えをまとめた英文を書くことができる。</p> <p>(観察、ワークシート 、評価シート)</p> <p>【ア 、エ】</p> <p>B: キーワードを抜き出すことができる。</p> <p>A: 筆者の考えを抜き出すことができる。</p>
	3	<p>前時にまとめたセクション 1 の英文をグループ内で読み合い、正しい語順や表現方法などについてアドバイスし合う。</p> <p>・お互いの英文を見合い、新たな表現を学び合う。その後、よりよい英文を作成する。</p> <p>セクション 2 の本文を読み、筆者の考えをまとめることができる。</p> <p>・本文を読み、筆者の考えをまとめられるようにキーワードを抜き出す。</p> <p>【見通し 1】</p>	<p>・各グループでお互いの英文を読み合い、アドバイスを行えるようにする。</p> <p>・ワークシート を使用し、考えが述べられている箇所を見つけられるように各段落ごとの記入欄をワークシートに作成する。</p>	<p>・お互いの英文を読み合い、新たな英文を書くことができる。</p> <p>【ア】</p> <p>B: 友達からのアドバイスを取り入れ自分の英文を書き直すことができる。</p> <p>A: 友達からのアドバイスを取り入れ、新たに 1 ～ 2 文加えることができる。</p> <p>・筆者の考えを自分自身の表現を用いて、英語で書くことができる。</p> <p>(観察、ワークシート 、評価シート)</p> <p>【ウ】</p> <p>B: キーワードを抜き出すことができる。</p> <p>A: 筆者の考えを抜き出すことができる。</p>
	4	<p>前時のセクション 2 でまとめた英文をよりよいものにするために互いの英文を読むことができる。</p> <p>・ほかの生徒が書いた英文を辞書や提案表現集を参考にしながら読み、理解する。自分自身の英文を書き直し、よりよい文を書く。</p> <p>セクション 3 の本文を読み、筆者が考える森林と漁業の関係について英文でまとめることができる。</p> <p>・繰り返し使用されている語や表現に着目し、筆者の考えをまとめ、ほかの生徒と英文を交換し合う。その後、自分で気付かなかった表現を用いて英文を書く。</p> <p>【見通し 1】</p>	<p>・語順や単語の綴り、文法の正誤などを辞書や教師の支援を受けてながら、お互いの英文を読み合い、アドバイスを行う。</p> <p>・ワークシート に本プログラムのまとめとして、筆者の主張として考えられる語や文を抜き出し、整理できるようにする。</p>	<p>・お互いの英文のよさを見つけ合い、自分の表現方法に加え、よりよい英文を書くことができる。</p> <p>【ウ】</p> <p>B: 提案表現集を参考に 1 ～ 2 文書くことができる。</p> <p>A: 友達のアドバイスカードを生かし、3 ～ 4 文書くことができる。</p> <p>・筆者が考える森林と漁業の関連性を英語で表現することができる。</p> <p>(観察、ワークシート 、評価シート)</p> <p>【ウ 、エ】</p> <p>B: 筆者の主張と考えられる語や文を抜き出すことができる。</p> <p>A: 自分の考える森林と漁業に対する考えを 1 ～ 2 文で書くことができる。</p>
	5	<p>前時セクション 3 の森林と漁業の関係をまとめた筆者の考えを英文を読み合い、</p>	<p>・辞書や提案表現集からよりよい表現を見つけ出し、アドバイスが行えるようにする。</p>	<p>・筆者の考えをまとめる視点で、友達からのアドバイスを参考にし、よりよい英文を作成することができる。</p> <p>【イ 、エ】</p>

応 用 の 過 程		<p>アドバイスを行う。新たな表現を用いて、よりよい英文を完成する。</p> <p>自然を守るための方法に関する英文を読み、自分の考えを提案する英文を書くことができる。</p> <p>・英文を読み、これから自分たちがやるべき自然を守るための行動を英語で表現する。</p> <p>【見通し2】</p>	<p>・ワークシート を用いて自分の思いや考えを伝える上で必要な表現または既習事項などを語や文で書き出せるようにワークシートを工夫する。</p>	<p>B:筆者の考えである英文を抜き出すことができる。</p> <p>A:筆者の考えをまとめる英文を書くことができる。</p> <p>・自然を守るための提案を3文以上の英文で書くことができる。</p> <p>(観察、ワークシート、評価シート)</p> <p>【ア、イ】</p> <p>B:提案表現を参考に2～3文の英文を書くことができる。</p> <p>A:3文以上の英文で自分の考えをまとめることができる。</p>
	6	<p>前時に書いた提案文をほかの生徒と交換し、読み合い、指摘し合う。その後、自分自身として説得力のある英文を作ることができる。</p> <p>【見通し2】</p>	<p>・自分の思いや考えをきちんと述べられるように友達のアドバイスをし合えるようなグループ作りをする。</p>	<p>・自分の自然保護への思いや考えを説得力ある英文で表現することができる。</p> <p>(観察、ワークシート、評価シート)</p> <p>【ア】</p> <p>B:説得力ある文を作るために提案表現集や辞書、友達のアドバイスを参考に正しい英文を作ることにこだわらず、作ることができる。</p> <p>A:説得力のある表現方法を用いて、読み手を意識した、正しい語順、文法で英文を書くことができる。</p>
	7	<p>・完成した提言文を発表する。</p>	<p>・お互いの発表を聞き合い、評価するようにする。</p>	<p>・大きな声で堂々と発表することができる。</p> <p>(観察、評価シート)</p> <p>【ア、イ、エ】</p>

研究の結果と考察

1 導入の過程においては、教科書の英文を読んで、筆者の考えをまとめる視点で、語彙や本文をワークシート、に整理し、よりよい英文作りをする上でのInputとOutputの繰り返し活動を行うことは、英文作りに興味をもって取り組むために有効であったか

まず教科書の「Fishermen and Forest」の各セクションを読み、段落毎に筆者の思いや考え、または森林や漁業に関連する語彙や構文や言い回しなどを抜き出し(Input)、各ワークシートに整理する活動を行った(Output)。その際、内容を理解するために日本語訳も用意し、活用できるようにした。

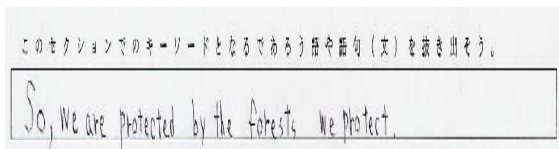
各セクションを行うなかで、英語の抜き出しができなかった生徒は見られなかったものの、森林や漁業に関連する語は抜き出すことができた。しかしながら、筆者の考えを見付けるのに、クォー

テーションマークに着目した者もいたが、多くの生徒はどんな点に留意したらよいかを思案している様子であった。ただ、グループ内で抜き出した語彙や構文を読み合う活動を通して、表現の幅を広げ、喜びを感じているようであった。

A男は、各セクションごとの抜き出しの活動に意欲的で、グループ内の仲間からの質問などに答えて自分が使った表現などを教えたり、的確なアドバイスを与えたりしている様子が見られた。セクション1の読みの活動時には、「筆者の考えは、クォーテーションマーク内にある語だ。」とつぶやき、“We must ~ €の英文をワークシートに抜き出した。しかし、セクション2においてクォーテーションマークが見当たらないことに気付くと、“So”や“Then€といった接続詞が使われている英文を抜き出し、筆者の考えが含まれている文であると判断し、ワークシートにまとめた。ワークシートとを比較すると、ではただ単語が抜き出されているだけであったのが、では筆

者の考えであると思われる文が書き出せるようになっている。「自分が知らない表現の仕方がわかってうれしかった。」と述べていたことから、満足のいく語彙や文に気付いたものと考え。セクション3においては、セクション1、2で繰り返し使用されているものとして抜き出した語や表現をほかの生徒と意見交換しながら、筆者の考えをワークシートに一文でまとめた(資料1)。この文からは、特に接続詞に着目していることが見てとれる。セクション1から3までの活動の中で、A男は色々なアドバイスをしていた。その中には「文をもっとわかりやすく書こう。」「文の最後はピリオドで終わりにしよう。」など、文を作る上での決まりに関するものもあった。そして、評価シートには「みんなからももらったアドバイスはその通りだと思った。これからもっとしっかり文が書けるようになりたい。本文を読んで、それを生かして英文を書くのは難しいけど、新しい表現などがわかるので勉強になる。」と感想を書いているところから、英語表現を身に付けることの大切さに気付いたものと思われる。

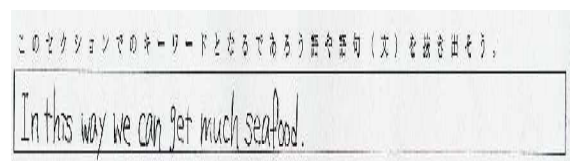
資料1 A男のワークシート



B女は、教科書の本文を理解して、語や表現の抜き出しを行う前に教師の用意した本文の日本語訳のプリントを参考にした。そのため、内容を理解して、筆者の考え方をまとめる活動に難なく取り組むことができたようである。セクション1においては森林に関連する語しか抜き出すことができなかったが、仲間との教え合いの中で、漁業に関連する語も数個抜き出すことができた。筆者の考えと思われる語や構文までは抜き出すことができなかったものの、仲間から「“We must ~”ってことは筆者の言いたいことだよ。」と指摘され、ワークシートに一文書いた。その際、自分で表現を見付け出せなかった悔しさが表情に出ていたため、教師が「次は自分が正しいと思ったものを自分で見付けて書いてみるといいよ。」と声をかけ励ますと、次のセクションで関連語を見付けたいという気持ちを強くしたようだった。そしてセクション2においては、“But”や“So”といった繰

り返し使われている語に着目し、筆者の考えと思われる文をワークシートに書き出した。関係代名詞が使われている箇所にも着目し、その文を抜き出していた。しかし、熟考した結果、筆者の考えではないことに気付いてあらたな文に書き直した。セクション3においては、それまでまとめることのできなかった筆者の考えをワークシートにまとめることができた(資料2)。ここでは接続詞に着目し、それらが含まれた教科書の文に線を引き、抜き出す候補に挙げていた。また“First”, “Second”といった具体例を述べる時に使われる語などが使用された文にも線を引いていた。

資料2 B女のワークシート



以上のことから、筆者の考えをまとめる活動において、Input と Output の繰り返しを行えば、英文作りに興味をもって取り組むために有効であったと考える。

2 応用の過程においては、教師の提示した英文に対し、提案するという視点で、ワークシートに整理し、説得力のある英文作りをする上でのInput と Output の繰り返し活動を行うことは、生徒が書くことに自信がもて、自分の思いや考えを表現しようとする態度を育てるために有効であったか

応用の過程においては、導入の過程での学習をより深めるために、教師の提示した英文に対する自分の思いや考えを書く活動を行った。教師が提示したテーマは「Trees」「Trash」「Oil」の3つで、グループごとに異なったテーマの10文程度の英文を読んで、「自然を守るための提言」の文をワークシートに英語で書くようにした。その際、辞書や提案表現集や日本語訳のプリントを用意して参考になるようにした。

A男は、「Oil」についての英文を読み、英文に対し自分がどのように思うかについて書き出した。“Because ~”と書き出して、理由を述べるなどの工夫をしていた。ただ、一つだけ接続詞を用いても説得力のある文にはならないと考え、

“Also€35 いった接続詞も付け加えた。そして最終的には5文を書き上げた。この5文についてグループ内の友達から指摘を受け、接続詞の使い方の正誤に関わるもの、より説得力のある文を作るための表現の工夫などを参考にした。「友達からのアドバイスを受け、多くの語彙や構文を学びとったことで、書くことに自信がもてるようになった。」と評価シートに書いていた。

B女は、「Trash」についての英文を読み、辞書や提案表現集から意味を調べながら、内容理解をしていった。まず自分の思いや考えを日本語で書き、その後、英文に書き直すようにし、語彙の使い方や文法にも注意をはらいながら、友達へ質問するなどして、英文作りに楽しそうに取り組んでいた。多くの語彙や表現を友達の英文から学び、それらをどんな場面でどのように使用するのがよいのかについて教師に意欲的に質問する場面もあった。“I think ~ €で1文目を書き出したものの後が続かず、再度仲間からアドバイスを受けて、“I think it is not need much paper.€35書き上げた。文法的には正しい英文ではなかったが、思いが伝わるものであったと考えられる。その後、同じグループの生徒が使用していた接続詞の“But€35を用いて、文章を展開していた。そして最終的には“I hope€35を用いて自分の希望を含めた提案文にするなどした。何とかして自分の思いや考えを相手に伝えたい気持ちの表れであると考え（資料3）。同じグループ内の生徒からは「一生懸命、書こうとしているB女さんはスゴイ。」「しっかりと自分の考えが書けてスゴイ。」といった感想をもらい、喜ぶ表情が見られた。

資料3 B女のワークシート

① I think it is not need much paper.
② But I thow away soon.
③ I don't buy unnecessary things.
④ So I hope were not going to try to throw trash.
⑤ And every one can do so together.

以上のことから、自分の考えを提案する活動において、Input と Output の繰り返しを行うことは、書くことに自信がもて、自分の思いや考えを表現しようとする態度を育てるために有効であったと考える。

研究のまとめと今後の課題

この活動を通して、繰り返し何度も使用場面に沿った語彙や構文を学ぶことで、書くことにも自信がもて、さらにはもっといい英文を書きたいと思うようになったと考える。自分自身が気がつかなかった語彙や構文、表現などを友達からのアドバイスから学び取ることができたことで、生徒たちの学習意欲の一層の向上へとつながったと考える。

英語で自分の思いや考えを書いて表現するためには、ある程度の英語力が必要とされる。今後は、英語力を向上させるために、学習意欲を喚起させることを大切にしながら、聞く、話す、読む、書くの活動の有機的な関連を図れるような工夫をしていきたいと考える。

<参考文献>

- ・金谷 憲 著 『英語リーディング論』 河源社（1995）
- ・田中 武夫・田中 知聡 著 『「自己表現活動」を取り入れた英語授業』 大修館書店（2003）

